

## 平成 27 年度第 2 回鎌倉市食育推進会議 会議録

日 時：平成 28 年 1 月 18 日（月）18 時 30 分～20 時 00 分

会 場：鎌倉市役所第 3 分庁舎 講堂

出席者：＜委 員＞中村会長、中谷副会長、安齊委員、五十嵐委員、黒木委員、  
富田委員、中込委員、牧田委員、渡辺委員  
清委員代理・栗山氏

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

福祉総務課長、高齢者いきいき課長

こどもみらい課長、産業振興課長

教育総務課長、学務課長、教育指導課長、教育センター所長

小学校代表校長、中学校代表校長

事務局（部長及び市民健康課）

磯崎健康福祉部長、河合課長補佐、三島担当係長

斉藤管理栄養士、大竹管理栄養士

### 事務局（河合補佐）

皆さまこんばんは。

定刻になりましたので、ただいまから平成 27 年度第 2 回鎌倉市食育推進会議を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

事務局を努めさせていただいております、市民健康課の課長補佐の河合でございます。どうぞよろしく願いいたします。

只今の出席者は 10 人ということでございます。鎌倉市食育推進会議条例施行規則第 3 条第 2 項により、委員の過半数が出席されておりますので、本会議は成立しております。

乃生委員からは欠席のご連絡を頂いております。

また、本日の、傍聴希望者はございませんでしたことを、ご報告させていただきます。

後ろに着席しておりますのは、市の関係各課の課長で組織しております、鎌倉市食育連絡協議会の委員でございます。

個々の紹介は省かせていただきますが、お手元に「食育連絡協議会名簿」がございますので、ご承知おきください。

それでは、中村会長、会議の進行をよろしく願いいたします。

## 中村会長

皆様こんばんは。本日はお寒い中お集まりいただきありがとうございます。  
只今、事務局から会議の成立について報告がありました。  
これより、平成 27 年度第 2 回鎌倉市食育推進会議を開会いたします。

先月、国が今年度の健康栄養調査を発表しました。今回は「経済格差と栄養」という印象深い報告を取り上げました。家庭の収入と健康や栄養との関係を報告し、経済格差が広がると家庭の健康にどのように関与しているのかを明らかにしたわけです。このことは欧米では以前から言われていましたが、いよいよ日本でも表れ始めたわけです。国際会議にいけますと、日本は国民一人当たりの栄養摂取量で表現できますが、多くの国は富裕層と貧困層とで分けてデータを出します。今回出た経済格差は所得の少ない家庭ほど、肥満と痩せが多く出て、生活習慣病にもなりやすいというものです。家庭が貧しいほど炭水化物と油の摂取量が多く、たんぱく質とビタミン・ミネラルの摂取量が少ないという結果が出ています。理由としては、炭水化物と油の食品は値段が安いということ、それに比べてたんぱく質食品やビタミン・ミネラルの多い野菜や果物は相対的に値段が高くなっているのです。二番目は健康や栄養に関する知識の不足です。貧困層のほうが、健康や栄養に関する知識に触れ合うことが少ないのではないかと心配しています。ジムに通い健康づくりができるのはその地域住民の 1～2 割に過ぎないそうです。その層をみて日本人の健康意識が高くなり、健康になったというのは言えないのです。まだそういったところに行けない人はたくさんいます。これから我々も全ての人が健康になるためにそういった層にも目を配らなければならないと思っています。

本日も会議がスムーズに進みますよう、ご協力の程よろしく願いいたします。

では、会議次第に従い、議題 1 「鎌倉食育推進計画 行動計画 平成 27 年度上半期の実績報告について」に移らせていただきます。事務局から説明をお願いします。

## 事務局（河合補佐）

先ほど一つお伝え忘れたことがあります。本来ですと、市民健康課長の曽根が進行する予定でしたが、本日風邪により欠席をさせていただいております。ご了承下さい。

## 事務局（大竹）

市民健康課健康づくり担当の大竹と申します。

まず、本日の資料ですが、事前にお送りしておりますが皆様お持ちいただきましたでしょうか。本日の資料が3つございます。

（事前資料1）第2期鎌倉食育推進計画 行動計画

（資料2）平成25～27年食育アンケート集計結果

（資料3）健康づくり計画（案）

（資料4）健康づくり計画へのご意見・ご感想記入用紙

それでは、「第2期鎌倉食育推進計画 行動計画」をご覧ください。

こちらは、第2期鎌倉食育推進計画の「取り組みの柱」、「基本施策」、「行動計画（指標）」について記載し、「取り組みの柱」ごとに、目標値を達成するためにどのような事業を行うか「実施事業」欄に記載し、実際に行った事業について「実施主体（担当課）」、「実績」をまとめたものです。

この「行動計画」により、鎌倉食育推進計画の進行管理を行っていきます。

ここで、平成27年度上半期の実績として、いくつかの事業実績についてご紹介します。

3ページをご覧ください。

中学校祭や商工会議所の健診会場などで、全年齢を対象に食と健康づくりについての啓発を行った「地域健康教育」の写真を掲載しています。今年度は「減塩」をテーマに、ラーメンを食べたときに飲む汁の量や、焼肉のたれの付け方等をアンケート形式でお聞きし、回答結果から減塩をする工夫をお伝えしました。今年度は全10会場で約450名の方にお聞きしています。減塩は“わかっているけど取組にくいこと”の一つですが、対象者の方とお話をしていく中で、その人にあった取組方法をお伝えしました。例えば「タレはかけて食べるよりもつけて食べるほうが減塩になりますよ。」などとお伝えすると、対象者の方から「それならできそう。」というお声もいただきました。

4ページをご覧ください。

神奈川県食品衛生課と共催で実施した、食育カレッジ「健康食品の正しい利用方法について」の様子を掲載しています。国立健康・栄養研究所、千葉剛（ちば つよし）室長にご講演をいただきました。講演後には参加者同士でグループ討議を行い、健康食品の利用方法について理解を深めました。参加者からは「テレビの情報番組ばかりから与えられる情報にまどわされず、きちんと自分で調べて使用したい。」「3食バランス良く食べることが大切で、健康食品が必ずしも必要なわけではないことがわかった。」などの声がありました。

7ページをご覧ください。

岩瀬保育園からご提供いただきました、食育フェスタで行った食に関する作品展示の様子と、バイキング給食の様子を掲載しています。

10ページをご覧ください。

鎌倉女子大学からご提供いただきました、鎌倉マルシェ及びペデマルシェへの出店、秋の収穫まつりの様子を掲載しています。

12ページをご覧ください。下から2段目に記載があります、「食育交流会の実施」についてです。今回上半期9月までの取組実績を取りまとめていますので、実施予定となっておりますが、10月に食育交流会をそうてつローゼン鎌倉深沢店で実施しましたのでご報告いたします。前回平成27年度第1回の会議では、青年期へのアプローチ方法についての議題があがりました。

それらをふまえ、今回は「カラダの中から元気に！」をテーマとし、「野菜の摂取量や食物繊維量の摂取増加」を目指したブースを設けました。小さいお子さんから高齢者の方まで楽しんでいただけるように、フジッコ株式会社さんによる豆つかみゲーム、野菜や食物繊維を多く摂取できる食材の展示やレシピの配布などを行いました。レシピに使用されている食材売り場には特定のマークをつけるなどし、イベントブースと売り場を連携した取組も行いました。また、そうてつローゼンに鎌倉やさいを卸している農家さんの紹介をし、野菜ができるまでの苦労や、農家さんの思いをお伝えしました。

実績報告については以上になります。

また、今回平成27年度上半期分のみの実績であるため、私立幼稚園などの取りまとめはしておりません。次回平成27年度年間実績報告の際に取りまとめをさせていただく予定であります。

## 中村会長

ありがとうございました。

何かご質問・ご意見はありますか。

健康食品の正しい利用方法についての講座では何か質問は出ましたか。

## 事務局（大竹）

健康食品を必ずしも使わないといけないと思っている方も多くいらっしゃった印象でして、「健康であっても健康食品を使ったほうが良いのですか。」という質問が出ていました。

## 中村会長

どんな健康食品を使っている人が多かったですか。そういったのは調べて

いませんか。

### **事務局（大竹）**

内容までは把握しておりません。

### **中村会長**

そうですか。健康食品を摂りすぎたり、偏った食事をしながら健康食品に過度に依存している人もいて、健康状態を害しているという報告が結構聞かれます。そういった情報は地元の医師会に報告することになっていて、それを日本医師会が取りまとめているのですが、深刻な症例も出ているようです。

みなさんから他に意見はありますか。

### **渡辺委員**

食育交流会の実施のところで、生産者等「食」に携わる人・団体やかまから食育クラブの交流をはかり、一緒に「鎌倉の食育」を推進する体制づくりを目指しますと書かれています。具体的に体制づくりとして今後どのように進めていこうと考えているのでしょうか。

### **事務局（大竹）**

食育交流会は市民の方への健康啓発はもちろんですが、そこに参加をしている事業者・団体・市等と一緒にイベントを行うことで、交流を図り、食育推進をしやすい体制づくりをすることも目的としています。今回はイベント会場の場所の関係で、多くのブースを設けることができなかったのですが、また来年度はイトーヨーカドーさんなどでの実施も検討していきたいと考えておりますので、その際は市民団体さんなどにも協力を仰ぎながら進めていきたいと考えています。

### **中村会長**

岩瀬保育園の食育フェスタやバイキング給食についてなどの取組について富田委員からご紹介いただけますか。

### **富田委員**

食育フェスタは園だけではなく、近隣住民の方も巻き込んで行うイベントでして、今回で11回目を迎えて、だいぶ定着したイベントになってきました。市役所からも市民健康課さんに入っていて骨密度測定をいただいているので、近所のお年寄りの方がとても楽しみにされていて、毎年

来て下さる方もいます。PTA や卒園児やその保護者や町内会の方なども参加をされていて、“1年に1回みんなで食を考え、美味しい体験をしましょう”というテーマで行っています。

バイキング給食についてですが、年に3回7月と12月と3月のお誕生会に合わせて、バイキング給食を行っています。行事食担当の職員がテーマを考えまして、給食室と保育士、職員みんなが一丸となって準備を行います。バイキングに参加するのは3歳、4歳、5歳児ですが、3歳児の初めは取りに行くのも難しかったり、食べるものも少し偏っていたりするのですが、2回3回と進めていくうちに、こちらで声をかけなくても自分でまんべんなく取れるような雰囲気になっていきます。この日は年長さんの保護者の方にも試食がてら盛り付けなどをお手伝いいただいて、一緒に食を楽しんでもらいました。

#### **中村会長**

バイキング給食は何年位なさっているのですか。

#### **富田委員**

もう30年を超えています。

#### **中村会長**

子どもたちの反応はどうか。

#### **富田委員**

年に3回のバイキングをととても楽しみにしていて、前日は「明日はバイキングだ！」ととても楽しみにしながら帰りますし、当日の朝は「今日のバイキングは何が出るのかな～。テーマは何か～。」と本当に楽しみにしてくれています。当日は午前中お誕生会を進行する職員と、午前中からバイキング給食の準備をする職員とに分かれるので、全員が忙しくて大変なのですが、子どもたちが喜ぶ顔を見ると止められず、スケールもだんだんと大きくなってきました。

#### **中村会長**

年に3回というのは、その時期にあったものを出しているのですか。

#### **富田委員**

はいそうです。メインのテーブルは野菜やお菓子で作ることが多いのです

が、7月は潜水艦やお魚やおばけの絵などになっていたり、12月はクリスマスに因んだものということでサンタさんの顔であったり、立体的なポテトサラダのツリーなどが出ていました。

### **五十嵐委員**

食育フェスタに近隣の住人の方が参加されるということでしたが、どのような感想が聞かれましたか。

### **富田委員**

やはり骨密度測定をととても楽しみに来られていますし、近所に住んでいても保育園に入る機会はありませんので、こういった機会に入らせていただくと子どもたちと触れ合ってもらったり、普段給食で出している、根菜入りの“びっくりカレー”や岩瀬保育園名物の“おでん”なども販売していますので、それを楽しみに来て下さっている方もいらっしゃいます。鎌倉やさいの販売などもさせていただいてまして、安齋委員にもご協力をいただいています。

### **中村会長**

ありがとうございました。鎌倉女子大学の取組についても中谷委員からご紹介いただけますか。

### **中谷副会長**

今回ご紹介していますのは、「大学はおいしい！！フェア」「鎌倉マルシェ及びペデマルシェへの出店」「秋の収穫まつり」です。「大学はおいしい！！フェア」は新宿の高島屋で行いまして、井上蒲鉾店さんと共同開発をいたしましたアカモクのさつま揚げの販売をしました。こちらは全国の大学で開発した商品を実際に新宿の高島屋で売るということをしてまして、すでに3回実施していますが本学では今年度初めて参加をしました。とても規模が大きく、来店者の方も多くいらっしゃいます。このさつま揚げはとても好評でした。

「鎌倉マルシェ及びペデマルシェ」ですが、市内の農業者である関谷の盛田さんと落合さんが作ったトマトを利用して、鎌倉産トマトのヨーグルトソースとトマトのジャムを販売しました。それぞれ別々にも購入できますが、2つ一緒に購入した方にはマルシェのかわいい袋に入れて販売を行いまして、こちらは飛ぶように売っていたようです。ペデマルシェは大船駅西口にあるペDESTリアンデッキで行ったのですが、松尾市長も参加されていました。

秋の収穫祭りは今年度も鎌倉女子大学の五大樹の道と正門の前で開催をしました。

### 中村会長

これはサークル活動で行ったのですか。

### 中谷副会長

こちらはゼミナールになります。

大学はおいしい！！フェアと鎌倉マルシェに出店をしたのは、食品学ゼミナールで、商品開発と販売をしています。

秋の収穫まつりは、私の公衆栄養ゼミナールでお手伝いをさせていただきました。

### 中村会長

大学はおいしいフェアはどこがやっているのですか。

### 牧田委員

NPOの団体で、催事のプロデュースやイベント企画をしている団体のような形です。出店者はそれぞれの大学と産官学と協働で開発したものを出していくという形でした。神奈川県で地域資源の指定になっているトマトを使って、日本大学さんではトマトソースを作ってもらっていました。

### 中村会長

部屋はどこでやったのですか。

### 中谷副会長

新宿の高島屋です。うちの大学がやりだしたきっかけは、企画者側からお声がかかったのです。その時点では開発途中でまだ製品化がされていなかったもので、2年がかりでの出店となりました。

例えば奈良女子大学さんは蔵元さんと紅麴でつくった桜色の日本酒を販売していました。北海道大学さんはプラスチックのような形でポプラ並木の絵が描かれているビンに入っている日本酒も販売していました。

### 中村会長

本格的に農学部を持っているところの研究室が出しているのですかね。

### 中谷副会長

そうですね。他に東京家政大学さんはお菓子なども出していたと思います。



## 中村会長

家政の方から出てくる大学さんもいるのですね。

## 牧田委員

毎年5月の終わりに開催しますので、ぜひいらして下さい。

## 中谷副会長

今、登録受付中のようです。

## 牧田委員

ただ、やはり商品化がきちんとできていて販売ルートが確保されていて購買できるというのが一つの出店要件になっています。大学と企業が一緒に開発をしていかないとできないと思います。

## 中村会長

商品化されていないとだめなのですね。

## 中谷副会長

ホームページもありますので、ご覧下さい。

## 中村会長

ありがとうございました。

では、市からの実績報告は、ひとまず終了します。

次に、議題の2「意見交換」についてですが、事務局から何かありますか。

## 事務局（大竹）

それでは、「平成25～27年食育アンケート集計結果」をご覧ください。

こちらは、平成25年4月1日から平成27年12月末までの期間、食育関連事業の参加者に食育アンケートを配布し、ご回答いただいた結果を年度ごとに集計したものです。

回答者数についてですが、お配りした資料の中に記載が漏れていましたが、平成25年度は660名、平成26年度は747名、平成27年度は304名の回答が得られました。

質問2以降ですが、左の表には全回答項目に対する回答の割合をお示ししています。右のグラフは、全回答項目のうち、プラスの回答である「毎日食べる」「時々食べる」「はい」「どちらかといえばはい」などの数値を棒グラフに示し

たものです。棒グラフの黒塗りになっている割合が完全に目標達成していることを示しており、上の斜線になっている割合はやや達成している人を示しています。なお、目標値は第2期食育推進計画の目標値を記載しています。

それでは、集計結果についてご説明いたします。

【質問1 性別・年齢】は、回答者属性の割合を示しています。

【質問2 朝ごはんを食べていますか】では、「毎日食べる」と回答した人は、平成27年度で89.5%です。

次に、【質問3 栄養バランスを考えて食事をとっていますか】では、「はい」と回答した人は平成27年度で31.3%です。

次に、【質問4 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続して行っていますか】では、「はい」と回答した人は平成27年度で16.4%です。

次に、【質問5 よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心がありますか】では、「関心がある」と回答した人は、平成27年度で51.0%です。

次に、【質問6 朝食又は夕食を家族と一緒に食べていますか】では、目標値の「週平均10回以上一緒に食べている」と回答した人は平成27年度で38.8%です。こちらはグラフ内に目標値が記載されていませんが、第2期食育推進計画内の指標は「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加」としており、目標値は週平均10回以上としています。

次に、【質問7 農業や漁業の体験をしたことがありますか】では、「ある」と回答した人は平成27年度で65.8%です。

次に、【質問8 県内産を含む地元産食材を使用していますか】では、「使用している」と回答した人は平成27年度で22.4%です。

次に、【質問9 消費期限や賞味期限などの食品表示や、食中毒の予防などの食品の安全性について関心がありますか】では、「関心がある」と回答した人は平成27年度で64.8%です。

アンケート集計結果全体としては、概ね目標値に達していましたが、平成25年度からの経年変化では、横ばいもしくは減少しているものが多くあります。また、回答の内訳では「どちらかといえばはい」と回答している人の割合が多い状況です。今後も、食に対する意識の底上げをしていくための取組を、継続していくことが重要であると考えます。

委員の皆様からは、アンケート集計結果からみた現状を踏まえて、計画期間後半に移るにあたり、どのような取組に力を入れていくべきか、今後の取組の方向性について、ご意見をいただきたいと思います。

## 中村会長

ありがとうございました。

まず、「食育アンケート集計結果」の説明について、何かご質問・ご意見はありますか。

質問6は目標値がないのですか。

## 事務局（大竹）

目標値が「週平均10回以上」となっております。何%という具体的な数値はありません。

## 黒木委員

全体的には思っているよりもいい結果が出ているなど感じたのですが、これは食育に関連する事業で行っているもので、女性の30～40歳代も多いですので、数字が良くなっているように思います。そういったところで、よくコンビニに行っているような若い男性などの世代の傾向というのはこの中には入っていないかなといった感じがしますので、その数字をどう集めるかが課題かと思いました。

## 牧田委員

私も黒木委員と同じことを思いました。食に関心のある方でさえこうだという感じがしておりまして、しかも年々数値が下がっているものもあるところをみますと、食に対して意識が高い方と低い方の差が大きくなっているのではないかと思いました。どのように採るかですが、例えば商工会議所さんでやられているオクトーバーフェストなどではたくさんの方がいらっしゃいますし、ビールの祭典なので若い男性もいらっしゃいますので、そういったところでやるのもよいかと思いました。

また、質問6の目標値が「週平均10回以上」ということであれば、現状30%台なので、それを50%に伸ばすなどとすればよいと思います。

## 中村会長

質問6は目標値を何%と決めた方が良いでしょうね。こちらは目標値を決めておいて下さい。

食育非関連事業として、何か良いものはないですか？

健康格差が出始めていて、健康オタクと言われている人たちはどんどん健康になる一方で、それ以外の層の人の方が多くて、これだけ健康づくりをやりながら、依然医療費は減っていません。

### **中谷副会長**

こういったものは、市民健診で行うことはできないのですか。

### **事務局（大竹）**

はい、そちらも検討しています。来年度は市民健診や、窓口にいらっしやった方にもご協力をいただきながら、実施していくことを検討しております。

### **中谷副会長**

それから、年代ごとに数値をみたりはしますか。

### **事務局（大竹）**

今回は暫定的は数値ということで、全年齢を合わせた年度ごとの評価としていますが、来年度正式に評価を行う際には年代別の数値も出していく予定でおります。

### **渡辺委員**

先ほど「週平均10回以上一緒に食べる人」の割合の増加をとの話が出ていましたが、今鎌倉市は超高齢社会で、一人暮らしの方が多くなっていきますので、現実的に難しいのではないかと思います。年代的に目標値を設けないと難しいと思います。

### **中村会長**

一緒に食べることを「共食」と言っていますが、共食の研究をしているグループが、一人暮らしで個食をしている人よりも、家族がいながら個食をしている人の方が健康度は良くないそうです。家族がいて一緒に食べられる環境にありながら、高齢者が阻害されているケースもあるそうです。

### **渡辺委員**

私の母の知り合いの方で、家族と一緒に住んでいるのに食べないという方がいました。その方は若い人とは食の好み合わないそうで、たまに一緒に食べるくらいで、普段はあえて一緒に食べないという話を聞いたことがあります。

### **富田委員**

うちの保育園では給食は和食を心がけて出しているのですが、子どもたち

は意外と和食が好きで筑前煮などもよく食べます。だからおうちで少しずつ作っていくと、子どもたちもお年寄りと一緒に食べるのではないかなと思います。やはり、環境的なことが大きいと思います。

### 中村会長

わが家も昔は家に多くの人っていて、家の人と近所の人に分からないくらいわいわい食べていたのですが、その時はお年寄りが若者につられて一緒に若い人と同じようなものを食べていたのではないかと思っています。

最近心配しているのは、高齢者のたんぱく質の摂取量が年々減っているのです。10年くらい前から高齢者の痩せが減らないのです。しかも女性の高齢者の痩せの人が増えつつあります。お年寄りが痩せると介護度が増してくるので、深刻かと思っています。どうしてお年寄りのたんぱく質の摂取量が低くなってしまうのですかね。質素になるのでしょうか。

### 中谷副会長

食事量が減るからでしょうか。

### 中村会長

確かに高齢になれば食事量は減りますが、それは昔も今も変わらないことです。何とも腑に落ちません。

他に何かありますか。

### 中込委員

質問7のところで農業や漁業の体験をしたことがありますか（地引網や野菜の収穫体験など）という問いに対して、「ある」と答えている人が65.8%いましたが、現状鎌倉で地引網は行われていないので、他の体験か、おそらく大半は野菜の収穫体験や家庭菜園などが主なのかなという感じがしました。

このアンケートをみると10歳代の回答者は少ないのですが、職業体験などの依頼は小中学校からありまして、第一小学校、第二小学校、大船小学校、今泉小学校、御成中学校、第一中学校、玉縄中学校、鎌倉女学院中学校などの学生さんたちも体験を行っています。

### 中村会長

ありがとうございます。他にありますか。

### 牧田委員

アンケートの内容とは異なりますが、二次産業ということで、うちも職業体験を行っています。第一小学校、稲村ガ崎小学校、横浜国立大学附属中学校、鎌倉女学院中学校の学生さんは、工場体験やワークショップを行ってまして、また比企谷幼稚園の園児さんとその保護者の方向けにもワークショップを行っています。そのような形で、原材料から加工する過程を一緒に作りながら、出来上がったものに対して興味を持てるように、協力をさせていただいています。

### **中村会長**

ありがとうございます。一次産業に限定されたものではないですね。

### **黒木委員**

うちでも職業体験がありまして、中学校や調理学校の方がいらっしゃって、厨房に入ったりしています。

### **中村会長**

みなさん色々な体験をされていますね。

それでは、次に事務局から提示のあった今後の取組の方向性について、委員のみなさんからのご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

特にないですか。

では、議題3「健康づくり計画の策定状況について」ですが、事務局からご説明をお願いします。

### **事務局（斉藤）**

市民健康課健康づくり担当の斉藤と申します。

前回の食育推進会議の中でもご説明いたしましたが、市民健康課では健康増進法第8条第2項に基づき、市民の健康づくりの指針・行動計画となる「鎌倉市健康づくり計画」について、平成27年度末の策定を目指して作業を進めています。今まで「鎌倉市健康増進計画」を仮称としておりましたが、正式名称を「鎌倉市健康づくり計画」に決定いたしました。現在、1月12日から2月12日までの期間で、この計画案に対するパブリックコメントを実施しているところです。

それでは、健康づくり計画案について、ご説明いたします。健康づくり計画案をご覧ください。

本計画は、第1章が「計画策定の趣旨と背景及び計画の位置づけ」、第2章が「鎌倉市の現状」、第3章が「行動目標や取組提案」、第4章が「計画の推進

体制や計画の評価」という構成になっています。

25 ページをご覧ください。

第3章では計画の基本理念及び基本目標を達成するために、7つの分野と5つのライフステージに分けています。

また、26 ページをご覧ください。計画の施策体系と前期の目標になります。7つの分野と5つのライフステージ各々における行動目標を設定しています。行動目標の中で、子ども期の「食生活・栄養」を前期の重点目標としています。子ども期は、成長と発達に伴い、大人のサポート度と子どもの自立度が変わっていくことから、0歳～12歳と13歳～19歳に分けて考えています。

次に、各分野の行動目標の中から、「食生活・栄養」の分野についてご説明いたします。

34、35 ページをご覧ください。

ライフステージごとの「行動目標」と、「健康づくりについての意識調査からみえてきたこと」を載せています。

36 ページをご覧ください。

36 ページ以降は、現状と課題、「一人ひとりでできること」「みんなでできること」の取組提案、コラムを載せています。

コラムについてですが、子どもⅠ期は共食をとおして食を楽しむこと、子どもⅡ期は共食の良さを味わいながら、自分で正しい食の選択ができること、青壮年期は“バランスよい食事”の内容や量を知ること、高年期は3食しっかり食べることを想定しながら内容を精査しました。

本計画は平成28年度から37年度までの10か年計画で、平成32年度に中間評価を行う予定です。将来的には、食育推進計画と統合することを検討していますが、健康づくり計画の食生活・栄養の分野と、食育推進計画の内容とでは重なる部分がありますが、異なる部分もあります。統合することで、食育の推進をしにくくならないように、在り方を検討していきたいと考えております。

この計画案へのご意見・ご感想があれば、同じく事前にお送りしました「鎌倉市健康づくり計画（案）への意見記載用紙」にご記入いただき、2月12日までにFAXもしくはメールでお送りいただければと思います。

## 中村会長

大変立派なものをお作りですね。みなさまどうですか。

## 牧田委員

こちらの本編はページ数が多くなっていますので、エッセンスや要点が書いてあるパンフレットのようなものが別に1つ必要ではないかと思えます。

薬局などでは小さなフライヤーのような健康啓発のものが置いてあります。

この計画を市民の方に手に取ってもらい、内容を見てもらわなければ、行政の自己満足で終わってしまうので、これを読んでもみようと思えるようなパンフレットがあるといいなと思います。

### **中村会長**

そういったものを作成する予定はありますか。

### **事務局（斉藤）**

計画の他に周知を目的とした概要版を作成する予定です。計画推進にあたっては市民の方に計画を実際に手に取ってもらい広く知ってもらうことがスタートだと思いますので、どのように計画を周知していくかはこれから検討していきたいと思っています。

### **事務局（河合）**

先ほどの回答に追加しまして、概要版以外に、年4回発行する健康づくり通信を発行していきまして、そこには一般の方が手に取りやすい内容にしています。こちらにも利用しながら計画の周知をしていきたいと考えております。

### **黒木委員**

やはり興味がない人にどうやって手に取ってもらうかが大事ななと思います。わが社の40歳代の独身男性は毎日コンビニ食を食べていましたら、先日本当に体調を崩しまして、そこで健康に気を付けるようになって最近では賄は野菜多めになど工夫をしています。きっかけを気づくところに置いておくことが大切だと思います。

### **渡辺委員**

一人でこれをすべて読むのは難しいと思うので、例えばサークル活動や自治会などでみんなでこれを読めるといいかなと思いました。個人としては、やはり具合が悪くなったりしないと気づきにくいと思います。

### **中村会長**

日本では行政が作った立派な資料がたくさんありますが、下まで降りて行かないのです。一般の人に「メタボ」や「食育」という言葉は受け入れられました。これらはあくまで概念であります。具体的な計画を落とししていくには、行政が作った計画を基に、民間が活用していくという仕組みを作らな



いといけませんね。アメリカでは、政府が病気を予防するための食事の指針を出しています。ワンフレーズで、「穀物を取りましょう」「野菜や果物を摂りましょう」といった内容なのですが、世界的なチェーン店であるレストランのデニーズがそれに乗っかりまして、パンフレットを出していました。政府が出している「穀物を取りましょう」というフレーズに対して、当店にはこれを満たすメニューはこれがありますよといった感じで、政府が作った指針を上手く利用して自分のお店の PR に使っていくという巧みな仕組みでした。このようなものが日本はまだなかなかないですね。レストランも社会貢献の一環になるのです。

### **富田委員**

みらいふるから老人会などに落としてもらうのもいいかと思いました。

### **中村会長**

このイラストもよくできていますね。

ちょっとしたコメントなども使えると思うので、引用文献だけきちんと書いてもらって、活用の仕方を工夫したらいいと思います。

こちらの計画はどこで手に入るのですか。

### **事務局（斉藤）**

市役所で配布します。市のホームページにも公開します。

### **中村会長**

この意見書もホームページには載せますか。

### **事務局（斉藤）**

お配りしているものは食育推進委員さん用の記入用紙になりますが、同時にパブリックコメントも実施していますので、ホームページにはいただいたご意見はどのようなものがあって、市の考え方はどうなのかということはホームページに公表します。

### **中村会長**

ぜひパブリックコメントは行った方がいいと思います。私も国のパブリックコメントを分析しているのですが、とても有効だと思います。

他にありますか。

## 黒木委員

先ほどのアンケートの中で「どちらかといえば」という回答が多かったですが、どちらかといえば興味はあるけど、具体的に何かをしているかと言われるとなかなかできていないという方が多いのではないかと思います。

この計画を活用して、実際にアクションを起こせる啓発ができればいいなと思いました。

## 牧田委員

先ほど「共食」の話がでましたが、昔は一人でレストランに入るのはなかなか大変で、「おひとりさま」という言葉もありましたので、食は誰かと一緒に食べるものというイメージがあった気がします。最近「孤独のグルメ」といって、美味しいものを一人で食べるという流行のようなものもあって、私の息子はこれを楽しみにしているのです。それはいかがなものかと思っていて、みんなで食べた方が楽しいという雰囲気を作っていくというムーブメントを作っていくことも大事かと思いました。

## 渡辺委員

一人では健康は見えにくいもので、相手がいて初めてお互いに健康を確認し合えると思います。そのためには「最近元気?」「一緒にご飯食べよう」などというコミュニケーションも大切だと思います。

## 中谷委員

この中に一人ひとりができることと、みんなでできることの記載がされていますが、みんなでできることに書かれているのは敷居が高いなという気がしました。できそうだけどそれを実際にやるのはかなり難しいと思います。みんなでできることが容易くできる社会になっていたらいいのですが。

## 中村会長

そうですね。みんなで健康づくりというのは、女性は得意かもしれませんが、壮年期男性あたりはなかなか難しい感じがしますね。黙々と一人で走っていますよね。他にありますか。

## 五十嵐委員

今スマートフォンが普及していて、様々な問題が挙げられていますが、そのうち画面の奥の相手と食事をするのを共食という日がくるのではないかと思います。

個人的な話ですが、先日初めて一人で回転寿司に行ってみました。カウンター席を案内されるかと思っていたのですが、ファミリー席を案内されまして、とても恥ずかしいと感じました。普通でしたら、ファミリー席に1人で座っていても相席にはしないと思いますが、発想の転換で、相席可能のゾーンを作るなど世の中の当り前を変えていくことも、一つの方法かと思いました。

## 中村会長

安齋委員は何かありますか。

## 安齋委員

個食について書かれていますが、うちも長男長女は大学生で、二男は中学生で、食事は基本バラバラです。うちは自営業なので、私と妻と母と一緒に食べますが、子どもたちは朝も家を出る時間が違うので一緒に食べられません。全員で食べるとしたら週に1回くらいかなと思います。

家族の形態によっても違うと思いますので、小さいお子さんをお持ちの方でしたら、もう少し可能かもしれませんが、成長していくにつれて、時間がバラバラになっていく気がします。目標を掲げることは必要だと思いますが、現実的には難しい家庭もあるかなと思いました。

## 牧田委員

子どもが小さいときには食事を一緒に食べられるチャンスがあるので、その時期にきちんと共食をすることで、食育の基礎ができるのかなと思いました。この時期に朝食を食べる、3食食べるというような基礎もある程度できれば、大学生になったり、自立をした後も、孤独のグルメに走ったり、忙しくてきちんとしたごはんが食べられなくなっても、何かのきっかけで「本来こうあってはいけないんだ」と気づいて修正ができると思います。ですので、子どもをきちんと見ていくことが食育の基本かなと思いました。

## 中村会長

最近子どもに食事をあげずに餓死してしまったという事件もありましたが、そのようなことは絶対あってはならないなと思っています。

では、その他、事務局から連絡はありますか。

## 事務局（河合補佐）

平成 28 年 6 月 23 日をもちまして、食育推進会議委員の任期が終了となり

ます。次回の会議は平成 28 年 7 月を予定しておりますので、会議へのご出席については、今回の会議で終了となります。長い間ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

皆様から貴重なご意見をいただきまして、第 2 期鎌倉食育推進計画の進行管理を円滑に行うことができました。今後、計画期間の残り 2 年間でどのように計画を推進していくか、さらに、計画最終年に計画の見直しを行い、本市における食育の評価をどのように行うかが課題だと考えております。

市民委員につきましては、3 月 15 日号の広報で 2 名の公募を行う予定です。他の委員の方につきましては、また各団体宛に推薦依頼をさせていただきますので、今後ともぜひお力をいただければと思います。

次期の任期は平成 28 年 7 月から平成 30 年 7 月までの 2 年間の予定で、推進委員の人数は 11 人で変わりません。

どうぞよろしくお願いたします。

このメンバーでの会議は最後ということで、健康福祉部長の磯崎からご挨拶を申し上げます。

## 事務局（磯崎部長）

改めまして、こんばんは。磯崎でございます。ただ今、説明がありましたとおり、当推進会議の委員の任期が今年の 6 月 23 日で満了となります。このメンバーでの会議は最後になりますので、私からも一言ご挨拶申し上げます。

一昨年 4 月に市民健康課に異動になりまして、中村会長のところにお伺いをし、引き続き食育推進会議委員の継続をお願いしましたところ、大変お忙しい中、ご快諾をいただきました。あれからまもなく 2 年が過ぎたのかととても驚いております。そしてその年の 6 月から新たなメンバーでの食育推進会議が始まりました。委員の皆様方にはそれぞれの立場から、色々な食に関するご提案をいただきました。おかげさまで少しずつではありますが、市民の食への関心は高まっていると思います。市が主催する食に関する講座や体験教室、鎌倉女子大学、岩瀬保育園、JA さがみ、鎌倉漁協などが企画するイベントへの参加者も少しずつではありますが増加していると伺っております。改めまして深く御礼を申し上げます。

先ほど鎌倉市健康づくり計画のご案内をさせていただきましたが、この計画におきましても、食は運動や睡眠・休息と並び、健康づくりを進める上での重要な要素として捉え、各年代の行動目標を記載しております。先ほど委員さんからもお話がありましたが、乳幼児期の頃から正しい食生活を身に付けることの大切さなどを強調しております。ご指摘がありましたとおり、計画策定が目標ではなく、計画を具体的に行動に移し、成果を上げていくこと

が本当の目的であります。元気な市民が増え、人生を多いに楽しんでもらいたいと思っております。

私もこの春市役所を卒業いたします。最後の2年間に委員の皆様と食を通じた貴重なお付き合いができました。重ねて御礼申し上げます。食育推進会議の発展と、委員の皆様のみずみずのご活躍をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。2年間ありがとうございました。

## **中村会長**

ありがとうございました。改めて、私からも皆様に感謝申し上げます。長い間ご協力いただきましてありがとうございます。

これまでの任期の中で、委員の皆様が感じてこられたこと、鎌倉の食育についてお考えのこと、また、今後の食育推進計画を健康づくり計画と統合していくかなどを含めた計画の在り方についてのご意見・ご感想をお願いしたいと考えておりましたが、時間になってしまいましたので、ご意見・ご感想がある方は健康づくり計画へのご意見記入用紙と一緒に記載をし、市民健康課にお送りください。

それでは時間となりましたので、これで推進会議を閉会いたします。